

## 特別寄稿 戦後の昭和歌謡について《2》

「ここに幸あり」は、海外に住む日系女性(ハワイ、ブラジル、東南アジア、他)に希望を与える歌として大歓迎された。特にハワイ興行で大津美子が帰国するホノルル空港には、多くの日系女性が押し掛けて見送ったと言うニュースが話題となって、日本でも大ヒットするきっかけになった。またフィリピンでは超人気曲になった。

## ● 名曲を作った作詞・作曲者の苦悩(8)-(9)

## (8) 《お月さん今晚わ》

作曲【遠藤 実】 歌【藤島桓夫】 昭和30年

作曲家遠藤実には色々な苦労話がある。昭和25年新潟からプロ歌手を夢見て上京した。東京で各種の仕事を経験しながら親に送金を続け、残りのバラ銭が700円貯まった時、待望のギターを買い、中央線沿線流して歩いた。しかし貧しさからは抜け出せない。食事はいつも三鷹の外食券食堂で一番安いサンマ定食である。彼は流しを続けながら、プロ歌手を目指して各地のオーディションに応募するが合格は叶わず、この日も帰ろうとすると、審査員室から話し声が聞こえてきた。「今日も又汚れた背広の奴が来ているよ。何度来ても受かりっこないのに！」。審査員室のマイクを切り忘れてほしい。これを聞き、彼は「なぜ歌自体で判断しないのか？」それほど「外観(ミテクレ)が大事なのか？」それなら、俺も作詞家か作曲家になって、いつか俺もその審査員になってやる(彼は流しをしながら、作詞や作曲を独学で勉強していた)。そう決意したものの、目標を失った寂しさは隠せない。三鷹の食堂でいつもの定食を注文すると、注文とは違った“カツ丼”が出てきた。女店員は彼が田舎に仕送りしながらプロ歌手を目指している事を知っていた。今日はいつもより沈んだ顔だったので彼女がプレゼントしたものだ。彼がいつも他の客が“カツ丼”を食べているのを羨ましく見ていたのを知っていたのだ。彼女の純真さに惹かれて、やがて彼女と結婚する。結婚したものの貧しさは相変わらずだった。荻窪を流していた時、作詞家松村又一の知遇を得る。彼は上京する前に裏山に登ったら大きな月が出ていた。思わず「お月さん東京に行ったら幸福になれるよう今晚の夢で見させておくれ！」と祈ったと言う。その事を松村氏に話したら、松村はそれをもとに「お月さん今晚わ」を作詞してくれた。渡された作詞に彼は1カ月もかけて曲を作り上げた。しかし人気歌手藤島桓夫に歌って貰ったにも関わらずレコード発売後は全く反応がなかった。「遠藤実の名もこれでお終いか」とガッカリした彼に信じられない事が起こった。ある日遠くから聞こえてくるチンドン屋のクラリネットの音が、どこかで聞いた事のある曲を奏(かな)でていた。チンドン屋が自分の長屋を通る時、それが自分が作った『お月さん今晚わ』だと初めて分った。彼は裸足のまま夢中で長屋を飛び出し、チンドン屋のクラリネットに“むしゃぶり”ついた。「とにかく嬉しさのあまり、無我夢中でクラリネットを掴んだまま、“俺のだ！ 俺のだ！”と叫んだ。突然、変な男が飛び出て来て、変な事を“ガナル”のでビックリしたのはチンドン屋の方である。取られちゃあいいかないとクラリ



遠藤 実

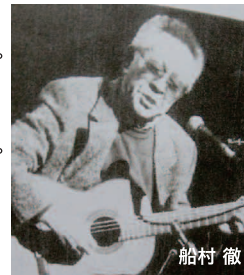
ネットをしっかりと握り、“バカヤロー！ こりゃ俺のだ！”。嬉しかったのだろう！ 彼の気持ちは痛いほどわかる。

彼は昭和33年コロンビアの招きに応じた。その最初の作品が「からたち日記」。やや不調に陥っていた純情歌手島倉千代子の人気を一気に挽回させた名曲として西沢爽と共に高く評価された。名実と共に花形作曲家として、新たなスタートを切った。(11)に詳述。

## (9) 《ご機嫌さんよ達者かね》《別れの一本杉》

作詞・作曲【高野公男・船村徹】 昭和30年

作曲家船村徹の生まれは栃木県塩谷郡船生(ふにゅう)村(旧今市市/現日光市)。勉強嫌いで先生から方程式が解(わか)らなくてよく説教された。数学のない学校はないかと探したところ音楽学校があった。親に内緒で東洋音楽学校(現東京音楽大学)に願書を出して入学した。親の反対を押し切って東京に出てきたので仕送りは無かった。学費を稼せがねばならず新聞売りのアルバイトを始めた。同じ仲間が高野公男がいた(彼らはやがて音楽学校を辞め作詞家・作曲家の道を進む)。船村は新聞の小銭計算が苦手だった。そこで見つけたのがバイト演歌師だった。アコーディオンを弾くボーカルの兄貴分に連れられギターを弾く。受け持ち区域は新橋から京橋。一晚に2から3往復もする大変な仕事だった。やがて兄貴分の親分にギターを腕を見込まれキャバレー専属のギター弾きに抜擢される。世の中何が起るかわからない。京橋で流すより楽しいと続けていた新宿キャバレーで船村を可愛がってくれたホステスが、キングの文芸部長清水滝二を紹介してくれた。その清水から掛川ディレクターを紹介され、船村・高野・掛川コンビで後に数々の名曲が出る事になる。「曲を作ったら持ってきなさい」と清水から激励を受けた船村は、一緒に新聞売りした高野と曲を作ってはキングに持って行った。しかしプロの道は厳しい。なかなか出番は回って来ない。ある日いつものように文芸部の部屋に行くと、学生服を着てダルマストープに薪をくべている男がいた。バイト生かと思って聞いて見ると歌手だと言う。気が合って3人で良く新宿を飲み歩いた。それが若き日の三橋美智也だった。船村・高野・三橋のトリオからひとつの歌が生まれた。それが『ご機嫌さんよ達者かね』である。この歌に限らず、高野・船村のコンビによって作られた演歌は、それまでにないユニークな発想と瑞々(みずみず)しい詩情に満ち溢れていた。正にニュー演歌の登場である。キングレコードは岡晴夫が抜け、春日八郎、三橋美智也、若原一郎、三船浩が頭を持ち上げて男性天国になる。高野・船村のフレッシュ演歌が彼らの起爆剤になった。『別れの一本杉』は戦後最大のヒットである。この歌のない春日八郎は考えられない。キングの男性天国はこの歌が狼煙(のろし)となって起きた。この歌で春日八郎は不動の地位を築き、今でも演歌を志す作詞家・作曲家・ディレクターのためのリーダーズ・ソングになっている。



船村 徹

日本一小さな葬儀社ですが、  
日本一小回りの利く、  
総合葬儀社です。  
お客様の立場で考え、  
お気持ちを理解し、  
想像力と創造力を働かせ、  
お客様にとって、  
最善のご提案をいたします。

【葬儀に関する業務】・葬儀施・終活安心設計・県外喪主サポート  
【管理・運営業務】・寺院運営サポート・老人ホーム運営サポート・わかばホール管理、運営  
【契約・提案】・死後事務委任契約・遺言、民事信託・相続、事業承継  
・不動産売買・空家管理・地域活性  
【お墓・法要】・永代供養墓・お墓掃除、お墓参り代行・法要手配

## 株式会社東日本メモリアルサービス

代表取締役 成田 竜也 (鷹巣高校出身)

企画アドバイザー 松木 一美 (S48M)

本 社：〒116-0003 東京都荒川区南千住6-30-12-203  
北秋田事務所：〒018-3315 秋田県北秋田市宮前町11-6  
わかばホール：〒116-0003 東京都荒川区南千住5-16-19  
対応エリア：東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・秋田県

フリーダイヤル. 0120-565-594 (24時間365日)  
TEL. 03-5615-3095 FAX. 03-5615-3096  
メールアドレス: info@memorialservice.jp

※お気軽にご相談ください。